

# 水産資源（マグロ）調査\*

渡辺 勇二郎

## 目 的

本調査は遠洋水産研究所の委託により、近海マグロ延縄漁船の水揚げ港である勝浦港に入港するマグロ延縄船より、マグロ資源研究のための基礎資料を収集することを目的とする。

## 方 法

昭和62年度水産資源（マグロ）委託調査要項（陸上）に基づき調査を行った。勝浦港に入港するマグロ延縄漁船のうち「漁獲成績報告書」が提出されない20トン未満の小型マグロ延縄漁船（以下19トン型船）のみ次の項目を調査した。

1) 船名、トン数、許可番号、今航海での第1回と最終回の操業年月日、操業回数、水揚げ年月日、出港々名、入港々名と年月日。

2) 主な漁場位置

以上の調査は委託により実施した。

また漁獲物の種類、体重組成の資料として「単価帳」を勝浦漁業協同組合より譲り受けた。

これらから得た資料を基にマグロ延縄漁船の入港隻数を月別に整理し、19トン型船については入港月別に、海域を経度は10度毎に、緯度は5度毎に区分した海区毎の操業隻数の調査隻数に対する百分率として整理した。

## 結 果

1987年4月～'88年3月に勝浦港に入港したマグロ延縄船は881隻であり、うち19トン型船は565隻であった。調査は19トン型船を対象に446隻実施し、結果を「マグロ漁業漁況調査票」に記入し「単価帳」とともに遠洋水産研究所に報告した。

勝浦港に入港したマグロ延縄漁船隻数の経月変化を図1に示した。入港船の64%を占める19トン型船の入港隻数は、1987年4月は83隻、5月は45隻であったが、6～10月には1ヶ月当たり16～30隻に減少し、11月～'88年3月にかけては60～91隻に増加した。

19トン型調査対象船の操業海域を図2に示した。1987年4月の入港船の漁場は東経130～140度、北緯30度以上の近海が中心であった。5～10月にかけて漁場は分散し、東経130～160度、北緯5～35度の広い範囲に分布した。11月～'88年1月には東経130～140度、北緯30度以北の海区に再び集中して操業がなされ、

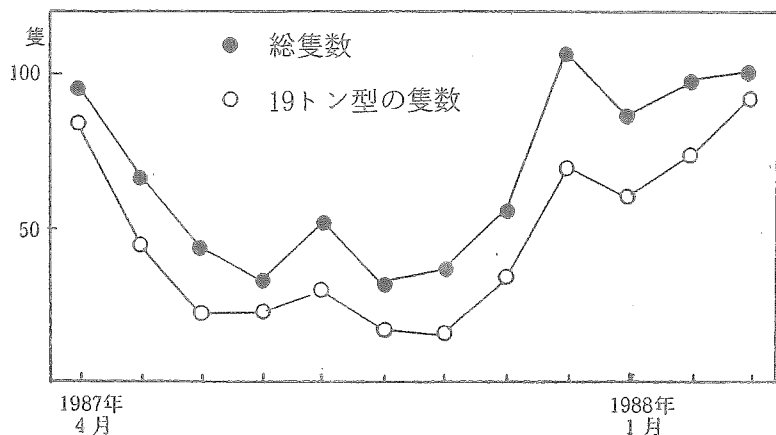


図1 勝浦港へ入港したマグロ延縄漁船の隻数  
(1987年4～1988年3月)

\* 水産資源調査費による。

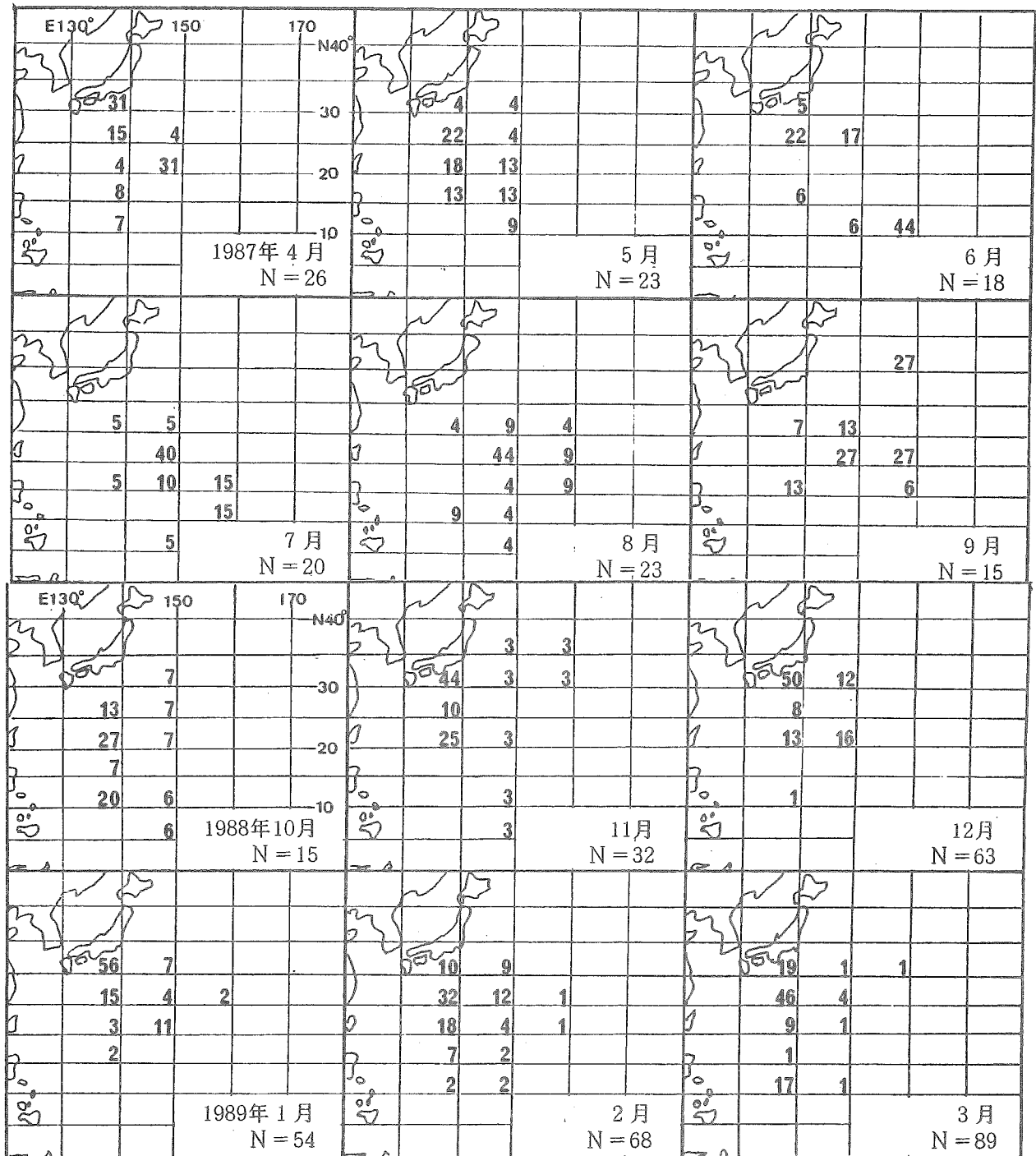


図2 勝浦入港19トン型マグロ漁船の海域利用度 (%)

2～3月にはやや南下し東経130～140度、北緯25～30度の海区での操業が増加した。このような本邦南方近海での漁場の形成の変化、ことに勝浦港に近い紀南漁場の冬春期形成が前述の4月および11月～翌3月の勝浦港への入港船の増加を促したと考えられる。